

ミャンマーの子 20人が県内交流

28日まで滞在

日本と海外の高校生交流事業「ティーンエイジ・アンバサダー事業」(主催・イオン1

25日から3日間、ミャンマーの高校生2人をホームステイで受け入れる沖縄尚学高校1年の米須竜晴くん(16)は

%クラブ)が23日、沖縄で始まり、ミャンマーと県内の高校生40人が県庁を訪れ、仲井真弘多知事に抱負を語った。

「お互いの文化を紹介し合うことが僕たちの責任。沖縄や日本の素晴らしさを紹介したい」と宣言。仲井真知事は「交流を深めてほしい」と期待を述べた。

これまで約1千人の高校生が参加してきた同事業が、沖縄で開催されるのは初めて。

昨年の第6回高校生太平洋・島サミットを機に実現した。互いの国を訪問し、相互理解を深めることが目的で、県内の高校生は8月にミャンマーで学校訪問やホームステイを体験している。ミャンマーの高校生20人は28日まで県内に滞在し、県内の高校生と交流を深める予定。



仲井真弘多知事を表敬訪問したミャンマーと県内の高校生ら(23日、県庁)